

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	17	子どもの教育の充実
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大倉慎澄 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図る。	盛岡市学校教育の目標を、「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」とし、全市的な取組を総合的に進めており、一定の効果が出ているものと認識している。 成果指標としている小中学校の学力については、学力向上推進事業による授業改善等の取組により、全ての指標で全国水準を上回ったが、体力運動能力については、小学校5年女子を除き下回っている。学力、体力運動能力とも、課題を分析しながら、引き続き全市的な取組を展開していく必要がある。

施策の概要

主な取組内容
教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めた。 また、スクールアシスタントや不登校生徒等対策相談員を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組んだ。学校施設については、プール改修工事、校舎増築工事等を行ったほか、適切な維持保全に努めた。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
小中学生	学力の向上が図られる。 心身ともに健全育成が図られる。
幼児	健やかな成長が図られる。
高校生	学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。
教員	誠実公正でかつ指導力が向上されている。
小中学校施設等	充実した教育環境が整備され、良好に保たれている。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:国語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み)	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し、見直しをもつ活動」「考え、学びあう活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによるものと考えられる。 授業における思考を促す学習活動が十分ではないことから、場面や心情を読み取る力等の更なる育成が必要である。
当初値(H25)	110.6	H31目標値	113.0		
指標②	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:算数】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み)	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し、見直しをもつ活動」「考え、学びあう活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによるものと考えられる。 授業における思考を促す学習活動が十分ではないことから、数の大小関係など、数を相対的に捉える力等の更なる育成が必要である。
当初値(H25)	108.4	H31目標値	110.0		
指標③	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:国語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における思考を促す学習活動が十分ではないことから、要点の読み取りなど読む力等の育成が必要である。
当初値(H25)	103.8	H31目標値	107.0		
指標④	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:数学】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み)	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し、見直しをもつ活動」「考え、学びあう活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによるものと考えられる。 授業における思考を促す学習活動が十分ではないことから、比例の関係を説明するなど「説明する力」等の更なる育成が必要である。
当初値(H25)	102.2	H31目標値	105.0		
指標⑤	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:英語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における思考を促す学習活動が十分ではないことから、文法を理解してそれを活用する力等を育成することが必要である。
当初値(H25)	103.2	H31目標値	105.0		
指標⑥	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:男】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	<ul style="list-style-type: none"> 20Mシャトルランの結果が、25年度結果より低く、全国との比較においても、低い結果となった。普段の体育の授業での運動量を確保するとともに、盛岡市と体育協会と協力し、SAQトレーニングの取組を更に充実する必要がある。
当初値(H25)	97.8	H31目標値	101.0		

実績値の推移				進捗の評価			
指標⑦	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:女】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み)			
当初値	25.0	100.5	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0	<p>・握力以外の種目において、25年度を上回り、全体でも、28年度を上回る結果となった。特にソフトボール投げが大きく伸びており、SAQトレーニングの取組とともに、教育研究所における投運動に係る研究成果の普及に努めたことがその要因の一つと考えられる。</p>
当初値	25.0	100.5	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0	
指標⑧	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:男】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)			
当初値 (H25)	100.4	100.4	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	<p>・20Mシャトルランと50M走の結果が、25年度結果より高くなっているが、全国平均も上昇しており、全体として28年度を下回った。体育の授業において、運動量を確保するとともに、正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れるなど指導改善を推進する必要がある。</p>
当初値 (H25)	100.4	100.4	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	
指標⑨	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:女】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)			
当初値 (H25)	100.2	100.2	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	<p>・50M走と反復横跳びの結果が、25年度結果よりは高くなっているが、全国平均も上昇しており、全体として28年度を下回った。体育の授業において、準備運動で敏捷性に係る運動を取り入れたり、正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れたりするなど、指導改善を推進する必要がある。</p>
当初値 (H25)	100.2	100.2	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	
指標⑩		単位	目指す方向				
当初値 (H25)			H31目標値		H36目標値		

進捗の評価(3段階):◎非常に順調に推移している(H31目標値を達成している)、○順調に推移している(H31目標値を達成する見込み)、△遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
17-1	小中学校教育の充実	<p>○学力検査</p> <p>1 小学校4年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(全国学調)及び数研式全国標準学力検査(NRT検査)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域で2ポイントずつ上昇した。 <p>2 小学校4年生算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及び、NRT検査の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査において大領域の状況を28年度と比較すると、「量と測定」「図形」領域で2ポイント上昇した。 <p>3 中学校2年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査の大領域で28年度と比較すると、4領域すべてにおいて全国比1～4ポイント下回った。また、「読むこと」の領域において、無答率が5割を超える小問が2問あった。 <p>4 中学校2年生数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査の大領域で28年度と比較すると、「関数」領域は3ポイント、「資料の活用」領域は16ポイント上昇した。一方で、「数と式」領域は3ポイント下がり、無答率が6割を超える小問が1問あった。 <p>5 中学校2年生英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査の大領域で平成28年度と比較すると、4領域全てにおいて全国比100を上回った。 <p>○体力運動能力調査</p> <p>1 小学校5年生男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の体力調査結果で落ち込みが見られた学年であるが、学年が上がるにつれて改善が図られている。 ・柔軟性と瞬発力が全国標準値を上回っている。 ・持久力と走力は改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。 <p>2 小学校5年生女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれて全国標準値を上回っている種目が増え、改善が図られている。 ・筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、投力が全国標準値を上回っている。 ・持久力と走力は改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。 <p>3 中学校2年生男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度の1学年時に比べ、大幅に体力の向上が図られている。 ・柔軟、瞬発力が全国標準値を上回っている。 ・持久力と走力は改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。また、投力の値が低いため、対策が必要である。 <p>4 中学校2年生女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋力、柔軟性、投力が全国基準値を上回っている。 ・持久力と走力は改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。 	<p>○学力検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返り活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。 ・学校における組織的な取組の評価を推進するため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。 <p>○体力運動能力調査</p> <p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の関係や登下校時の問題もあり、保護者の送り迎えが増えてきているが、徒歩の登下校の呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。 ・研究発表会への実践では、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、研究を推進する。 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に引き続き、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、体力の向上を図っていく。 ・体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。
17-2	幼稚園教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や、幼稚園からの情報発信など、教育の一層の充実に向けた施策の推進が必要である。 ・一部の幼稚園では、園児の少人数化に伴い、集団での遊びや体験の機会が減少し、発達段階に応じた幼児教育が保障されにくい状況が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの性格や長所等を把握して、きめ細かな幼児教育を提供するとともに、園だよりやクラスだよりを中心に情報発信を図る。 ・スタートカリキュラムを活用し、幼稚園教育と小学校教育の相互理解と円滑な接続、交流活動の推進を図る。 ・幼児の数が極端に少なく、学年の異なる園児の混合保育となっている幼稚園については、閉園を検討する。

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
17-3	高等学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職進路達成率及び国公立大学合格率は目標値を上回っている。引き続き、進路指導の充実と学力向上を図る授業の充実が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩手大学の教職員大学院と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくりを進めるとともに、大学入試改革への対応のため、対話による授業展開についての教員研修を実施するなど、教員の能力向上を図る。 就職支援相談員の継続配置に努める。
17-4	教職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座の参加人数は年々増加しているが、開催時期について、学校から、長期休業中は負担が大きいとの声も寄せられている。 公開講座の参加者アンケートでは、満足度は高くなっているが、満足の内容(評価の根拠)までは把握が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座の開催時期と研修日程の検討を十分に行い、参加者の負担軽減を図るとともに、研修内容の充実に努める。 今後、より質の高い研修を行うため、参加者アンケートの内容及び方法について検討したい。
17-5	学校施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 新たに5校の大規模改修に着手した。 限られた財源を効果的に活用し、計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努める。 「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化等が円滑に進むよう関係団体、関係部署と緊密な調整を図る。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	18	生涯学習の推進
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大倉慎澄 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図る。	社会教育施設では、市民の生涯学習を支援するため、市民ニーズを捉え、多様な講座の開催に努めているところであるが、利用者の年代や性別に偏りがあるなど、更なる創意工夫、改善の必要がある。 また、社会教育施設は老朽化が進んでおり、市民にとって利便性の高い施設となるよう改修・整備を計画的に実施していく必要がある。 今後も、市民の学習意欲を高め期待に応えられるよう、ソフト・ハード両面から、生涯学習推進のための環境づくりに努めたい。

施策の概要

主な取組内容
市民ニーズを把握しながら、各公民館等において、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など幅広いテーマで学習機会の提供に努めた。 また、区界高原少年自然の家の大規模改修や藪川地区公民館の新設を行い、市民の良好な学習環境の整備に努めた。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	意欲的に学習活動に取り組む
社会教育施設	計画的な整備や修繕により良好な環境が保たれる
-	-
-	-

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価		実績値の推移				進捗の評価	
指標①	単 位	目指す方向				指標②	単 位	目指す方向			
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの学習をした」と答えた市民の割合	%	↗			△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)						
当初値(H25) 40.6			H31目標値 43.9	H36目標値 47.2		当初値(H25)			H31目標値	H36目標値	
				<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設における学習講座は、多くの参加が期待できる市民が学びたいテーマだけでなく、社会の変化に応じて学んでほしいテーマとのバランスを図りながら実施する必要があることや、講座開催が日中に偏っていることが、主催講座の参加者が伸びない要因と思われる。 ・学習活動の機会や時間の確保が難しい働き世代・子育て世代の講座参加者数が少ない状況にある。 ・ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等により、生涯学習に対する市民意識が変化していることが背景にあるものと考えている。 							

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
18-1 社会教育の充実	・学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し、市民の継続的な学習活動に活用されているが、依頼団体が固定化する傾向が見られる。 ・家庭教育支援、青少年教育など社会教育事業の提供により、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生リーダーや新成人のリーダーが育成されている。	・社会教育に関する事業の効果的な周知方法を検討するとともに、家庭教育支援、青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続する。
18-2 社会教育施設の整備・充実	・区界高原少年自然の家の大規模改修及び藪川地区公民館の移転新築を行った。老朽化の進む他の社会教育施設の計画的な改修が必要となっているほか、新たな施設整備要望への対応についても検討が必要となっている。	・老朽化した社会教育施設の計画的な改修に努めるとともに、「公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針」との整合を図りながら、市民ニーズに対応した新たな施設整備の必要性を検討する。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	19	社会を担う人材の育成・支援
施策主管部等	子ども未来部	
評価責任者	藤澤忠範 子ども未来部長	
評価シート作成者	石橋浩幸 子ども未来部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
将来を担う若い世代や女性がライフスタイルに合わせ、社会のさまざまな場面で活動できるように、人材の育成や情報の提供などの支援に取り組む。	「ジョブカフェいわて」や「もりおか若者サポートステーション」の周知を図りながら、若い世代や女性が活躍できるよう、今後もさまざまな支援を展開する必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・県が設置する「ジョブカフェいわて」に、市事業としてカウンセラーを配置し、若者の就業支援を行った。 ・国が設置する「もりおか若者サポートステーション」において、市事業としてボランティア活動の場の提供や臨床心理士によるカウンセリングなどを実施し、若年無業者の就業に向けた支援を行った。 ・市役所でのインターンシップを希望する大学生等の受入を行った。 ・高校生が市内の民間企業でのインターンシップを経験できるよう、参加企業の拡充を図るとともに、高校生とのマッチングを行った。 ・高校生を対象に、職業観の形成や地元定着の意識付けを図るための研修を行った。 ・若者の地元定着を支援するために、就職後3年目までの若手社員を対象に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修等を実施した。 ・「高校生等地元定着支援事業」において、高校生や高校の教員を対象とした企業見学会を実施した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
若い世代の市民	社会で活躍できるようになる
—	—
—	—
—	—

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	単位	目指す方向		指標②	単位	目指す方向	
地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数	人	↗		ジョブカフェいわての利用者数	人	↗	
当初値(H27) 116	H31目標値 140	H36目標値 140		当初値(H25) 29,529	H31目標値 30,000	H36目標値 30,000	
<p>※H28に「進路を決定した人数」から「就職を決定した人数」に変更</p>				<p>△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)</p> <p>各関係機関と病院との連携が図られているほか、利用者数も増加傾向にあり、一定の人数が就職することができたものの、目標値の約半数に留まっている。</p>			
				<p>◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している)</p> <p>岩手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行なっているが、県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることもあり、利用者は目標を上回っている。</p>			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
19-1 若い世代の活躍支援	若年無業者となる背景は、心身の健康上の理由、人間関係に関する不安等、多種多様で複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いため、支援を必要とする若年無業者の全容把握が困難であるが、利用者自体は「地域若者サポートステーション」も増加傾向にあり、「ジョブカフェいわて」は、若年者の就労に関する相談の拠点としての認知度が高まってきている。	若年者は今後の社会を担う貴重な人材であり、就労や職場定着は重要な課題となっていることから、引き続き若年者や若年無業者の就労支援を行うものであるが、まずは支援機関を利用してもらうための、周知・PRIに努めることとする。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	20	地球環境の保全と自然との共生
施策主管部等	環境部	
評価責任者	菅原英彦 環境部長	
評価シート作成者	櫻正伸 環境部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地球環境や豊かな自然を次世代に引き継ぐため、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化の推進、水や緑の保全などに取り組み、地球環境の保全と自然との共生を推進する。	ごみの発生抑制、再使用及び再生利用(3R)推進によりごみの排出量は着実に減少している。事業系ごみの減量・資源化については早期に実効性のある施策を展開する必要がある。 地球温暖化対策、自然環境保全について講座を多数開催するなど施策の推進に努めているところであり、今後も再生可能エネルギーの拡大、市民の省エネ行動の啓発など効果的に進める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<p>【自然の保護と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布及び環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載している。また、適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めた。 【環境を大切に作る心の育成】 ・環境学習講座を20回開催したほか、環境部ホームページに『もりおかエネルギーパーク』の新コンテンツを追加した。 【資源循環型社会の形成】 ・全てのコミュニティ地区ごとの家庭ごみ排出状況を把握し、住民懇談会を実施するなど廃棄物の発生抑制、資源の再使用・再利用などに取り組むとともに、廃棄物処理の広域化を推進し、構成8市町でごみの減量や廃棄物のリサイクルについて検討した。 【地球温暖化対策の推進】 ・「盛岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」の改定及び「盛岡市木質バイオマス利用推進アクションプラン」を策定した。 ・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」を実施し、住宅に太陽光発電システム等の普及を図った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
身近な自然、森林・水源、その他(動植物)	自然が守られ、自然に親しむ機会が多くなる。
市民・事業者	地球環境の保全の大切さが理解され、環境に配慮した行動が促進される。 温室効果ガスの排出量削減が図られる。 資源の再使用、再生利用に取り組む。
廃棄物・資源	廃棄物の発生が抑制され、資源の再利用、再生利用が促進される。
—	—

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難) 28年度まではほぼ目標値を達成していたが、29年度は実績値が当初値を下回った。実施した事業においては、近郊自然歩道設置総延長等が目標に達していないことや、「地球環境にやさしい生活」の必要性の周知が不十分ではあったものの従来と同様の事業を実施しており、原因は不明である。 頻発する自然災害や地球温暖化に関する報道などが影響していることも思料されるが、今後は市民の意見を伺うとともに、情報提供の仕方など対応方法の検討が必要である。	
当初値(H25)	80.8	H31目標値	83.0		
指標③	ごみ総排出量	単 位 t	目指す方向 ↘	◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している) 当初値より年々ごみ総排出量が減少し31年度目標を達成しており、ごみの発生抑制やリサイクルの取組が成果として現れている。	
当初値(H25)	118,398	H31目標値	111,170		
※盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改定に合わせH28に目標値を変更している					
指標②	まちづくり評価アンケート調査「CO2の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難) 当初値より実績値が低下傾向にある。平成29年6月に地球温暖化について市民アンケート(有効回答388名)を実施したところ、地球温暖化に関心がある市民の割合は88.7%と高かったものの、実際に省エネに取り組んでいる市民の割合は68%であった。その理由としては、公共交通機関の利便性が悪いことによる自動車利用や省エネ機器買換に係る費用負担などが挙げられているほか、震災からの復興に伴い環境配慮行動への意識が薄らいでいることも考えられる。 地球温暖化対策としてのCO2削減の重要性や再生可能エネルギー導入の推進、ごみの減量について、取り組みやすい内容を分かりやすく広く市民に情報発信し、「地球環境にやさしい生活」について市民の意識を高めていく必要がある。	
当初値(H25)	80.7	H31目標値	83.0		
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		H31目標値		H36目標値	

進捗の評価(3段階):◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している)、○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み)、△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
20-1 自然の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道や登山道の情報を提供するとともに適切な管理を行い、市民が自然に親しむ場所を提供することができた。 ・玉山地域の近郊自然歩道について検討中であり、早期に設置する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林や河川などのかけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの市民が自然を感じられる環境づくりを進める。

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
20-2	環境を大切にすする心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講座やエコライフ推進イベントの参加者、環境部ホームページの閲覧者数が28年度より増加した。 ・地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数が頭打ちになっていることから、実施内容について改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者に環境保全に向けた取り組みやすい情報を分かりやすく提供するとともに、環境学習講座の開催や環境啓発の周知を行い、環境を大切にすする市民・事業者を育成する。
20-3	資源循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみ(資源を除く)の減量に向けての各種事業により、分別排出及び資源化に対する市民の意識が高まり、ごみ総排出量、1人1日当たりの排出量とも着実に減少している。 ・事業系ごみの減量・資源化を促進するための具体的な方策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者・行政の三者が協働して、廃棄物の発生抑制、資源の再使用・再生利用などの取組をさらに進めることにより、「循環型社会」の推進を目指す。 ・事業系ごみの搬入規制導入による資源化を推進する。
20-4	地球温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム等への補助により185件の太陽光発電設備が設置された。 ・「盛岡市木質バイオマス利用推進アクションプラン」を策定して利用推進の方向性を示したが、今後、具体的な事業を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、市民の省エネ行動の啓発などを進める。